

角田山山行報告

【山行日】2022年 4月 3日(日) 晴れ

【集 合】岩舟支所P AM 5:30

【費 用】マイカー2台 : 5,300円

【メンバー】CL:鈴木、SL大西、
安西、飯口、大塚、石澤、小松原、嶋田、島田、
関、福島、渡辺

【コースタイム】岩舟支所P 5:30 = 角田浜
P8:20/8:40 ~ 桜尾根登山口 8:50 ~ 角田山 10:10
~ 向陽台 10:30/11:00 ~ 角田山 11:10 ~ 三望平
11:30 ~ 角田岬灯台 12:40/12:50 ~ 角田浜
P13:05/13:25 = 岩舟支所P16:45



十数年前に見た雪割草とカタクリの大群落忘れられず、もう一度見てみたいとリクエストがあり桜尾根コースから灯台コースへ下る周回コースを計画した。花を求めての山行は、時季と天気合わなければ見られず、計画するのが難しい。

今回は天気が良いとの予報なので、皆さん期待に胸を膨らませ岩舟支所を出発する。北関東道から関越道を走り、関越トンネルを抜けるとまだまだ銀世界で歓声上がる。雪景色を楽しみながら順調に進み、北陸道の巻湯東ICで降りて角田浜に向かう。角田浜の駐車場に着くとすでに20台程駐車しており、我々もトイレに近い場所に駐車する。出発の準備をしてトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。駐車場から道路に出て、右に少し進むと桜尾根コースの登山口がある。このコースは私有地を通らせてもらう為、市の観光案内やガイドブックに掲載されていないコースだが、雪割草やカタクリの花が多く人気のコースである。登山口から登り始めると直ぐに雪割草(オオミスミソウ)が現れ、白やピンク、ブルーの可憐な花が出迎えてくれた。「今年はすごい花が多いけど、前はこんなに無かったよね」と言うと、写真を撮っていた地元の方に「前はいつごろ来ました?」と聞かれた。「5~6年前かな」と答えると「そうなんですよ盗掘されてその頃は一番花が少なかったんです。地元の有志が地道に苗を植え続け、ようやくここまで回復したんですよ」と教えてくれた。地元の方々に感謝しながら登り、雪割草の写真を撮りまくる。雪割草の花に混じってアズマイチゲやキクザキイチゲ、エチゴエンゴサク、オーレン等々花・花・花に圧倒される。



出発の準備をしてトイレを済ませ、ストレッチを行ってから出発する。駐車場から道路に出て、右に少し進むと桜尾根コースの登山口がある。このコースは私有地を通らせてもらう為、市の観光案内やガイドブックに掲載されていないコースだが、雪割草やカタクリの花が多く人気のコースである。登山口から登り始めると直ぐに雪割草(オオミスミソウ)が現れ、白やピンク、ブルーの可憐な花が出迎えてくれた。「今年はすごい花が多いけど、前はこんなに無かったよね」と言うと、写真を撮っていた地元の方に「前はいつごろ来ました?」と聞かれた。「5~6年前かな」と答えると「そうなんですよ盗掘されてその頃は一番花が少なかったんです。地元の有志が地道に苗を植え続け、ようやくここまで回復したんですよ」と教えてくれた。地元の方々に感謝しながら登り、雪割草の写真を撮りまくる。雪割草の花に混じってアズマイチゲやキクザキイチゲ、エチゴエンゴサク、オーレン等々花・花・花に圧倒される。

標高が上がると主役はカタクリの花に変わり、カタクリの間に雪割草やキクザキイチゲが顔を覗かせる。尾根の両側の斜面にカタクリの花が群生し、斜面全体が薄紫に染まっていた。今回参加した



方々はラッキーで、初めての角田山でこの花を見られた方は超ラッキーである。花に癒されながら疲れも感じず登り、灯台コースからの道に合流した。ここから木道をほんの少し進むと、角田山山頂の大きな標柱が建つ山頂に着く。山頂標柱の前で記念写真を撮り、そのまま直進して観音堂が建つ向陽台へ向かう。向陽台の手前にトイレがあり、女性達はトイレを済ませる。向陽台は東側が大きく開けた展望台になっており、広大な越後平野の全貌やその向

こうには朝日連峰、飯豊連峰、五頭連峰から守門岳まで見渡すことが出来る。大勢の登山者が休憩し昼食を食べているので、我々もここでランチタイムにしてベンチを確保する。お湯を沸かしてカ

ップ麺やスープなどを作り、おにぎりやパンなどをいただいた。いつものように唐揚げやチャーシュー、キンピラ等が皿に盛られて配られ、豪華なランチをいただいた。雪化粧した山々の絶景を眺めながらいただくランチは格別で、皆さん満足そうに食べていた。ランチが済んだら来た道に戻り、山頂先の分岐を左に進み角田岬の灯台を目指して下山する。尾根を下ると三望平と呼ばれる広場に出て、すぐ先で五ヶ峠への道を左に分け下って行く。やがてなだら



かな稜線を下るようになり、尾根の両側にカタクリや雪割草のパラダイスが始まる。ゆっくりとお花



を楽しみながら下り、平坦な場所で休憩を取りカメラやスマホに花を収める。「白いカタクリがあるよ」との声がして、皆で探すと2株見つかった。

ここから先は岩尾根を下るようになり、視界が開けて海に向かって下るようになる。眼下に角田岬の灯台が見え、日本海の向こうには佐渡島の金北山まで見渡せる。絶景を見ながら海に向かって下る登山道は、灯台コースでしか体験できない爽快なスカイラインである。鞍部まで下り、小ピークを2つほど超えると角田岬灯台に出る。

灯台から展望を楽しみ、右に付けられた階段を下ると日本海の波打ち際に下り立つ。ここから砂浜を数分歩くと駐車場に着き、あまりの車の多さに驚いた。靴を履き替えトイレを済ませたら帰路につき、往路に戻って関越道に入る。途中、越後川口 SA に寄って買い物し、予定より早く岩舟支所に帰着した。

